

令和7年度 宮崎工業高等学校 全日制 自己評価及び学校関係者評価

1 教育目標 校訓「努力」・「誠実」・「創意」の具現化を図り、豊かな人間性と礼節を身につけ、健康でたくましい身体をつくるとともに、専門的知識・技術の基礎・基本を習得した、科学技術の高度化や技術革新に対応できる工業人材を育成する。		
2 教育方針 (1)本県工業高校のフラッグシップ校として、その伝統や校風を継承するとともに、科学技術の高度化や技術革新に対応できる実践的な知識と技術を身につけた、地域社会に貢献できる工業人材を育成する。 (2)校訓「努力・誠実・創意」のもと、学習活動や部活動を通して確かな学力と礼節を身につけた心身共に健康でたくましい、次世代を担う気概溢れる人材を育成する教育を目指す。 (3)地域産業界・行政・大学等との連携を図りながら開かれた教育課程を推進し、学びの軸をキャリア教育で支えながらデュアルシステムや課題研究等の教育活動に取り組む中で自己実現を図る教育を展開する。		
3 スローガン 「宮工PRIDE 夢実現!」		
重点目標	自己評価	関係者評価
1 豊かな人間性の醸成	2.89	3.25
2 確かな学力の育成	2.76	3.00
3 キャリア教育の推進	3.36	3.25
4 モノづくり教育の充実	3.21	3.50
		総合評価
		3.15

評価委員による学校への意見・要望等

学力向上施策について、学校運営協議会にて、ご意見をさせていただきました。

そもそも何かを始める時には、先ずは(D)目標(描く姿)があって、(S)現実がどのようなになっているかを掴み目標とのギャップが問題であり、問題の原因を正確に要因分析し、次に(T)課題対応・検討を進め、実行計画に落とし込みます。多くの方々が、描く姿が曖昧で、現状もあまり確認しないまま施策を考えて実行されますので、思いのほか結果が良くないことが多いです。結果が出た時点で、元々とあまり変わっていないことに気づきます。実行計画を立てる前に(D)(S)(T)をしっかり進めることが、一番大切と思っております。実行計画は、校長先生からもありました「いつまでに」「なにを」「どれだけ」を日程軸で管理することが必要です。

この1年間は、先生方も生徒さんも大変忙しい時を過ごされたことと思います。不思議なもので、人間って、ちょっと苦しかったことの方が楽しい思い出に変化していくもので、そのような思い出を先生方とともに作った生徒さんたちは、きっと幸せです。そのような中で、新たなことにチャレンジして、学校運営の効率化を図ってこられたこと、その時間を生徒さんへと向き合う時間に使われたことが伝わってくる報告でした。また、小学生や中学生にものづくりの楽しさを知らせていく活動は大変良い取り組みです。そのような努力が、志願率のアップにもつながっていると拝察いたします。「本を読む」ことの推進をはじめのころに提言させていただきましたが、そのことにも真摯に取り組んでいただき、少しずつ読書の時間が増えていること良かったなと思っています。ものづくりの力は偉大です。実践力を持った若者が生まれてくる場所、それが工業高校だと思います。今後とも、よろしくお願いいたします。

色々な事情があって通学されている生徒さんが多い中で、面談の機会や生徒への寄り添い、生徒が一緒になって活動できる取組をされているなど、昨年に比べて更に手厚い向き合い方をされていると感じました。学力育成の面でも、生徒がより参加できる補講をどのようにしたらよいか改善策も考えておられて、素晴らしいと思います。卒業生代表で挨拶された生徒さんの答辞の言葉の中でも学校生活が豊かなものであったことが伺えました。この体制で是非今後も取り組まれていって頂きたいと思います。